■事業計画の概要

事業の名称

大阪都市計画事業岩崎橋土地区画整理事業

施行者の名称

大阪市岩崎橋土地区画整理組合

施行地区の面積

約19ha

事業の目的

多目的ドームと一体的かつ複合的なまちづくりを行うため、ドームを核とした土地の高度利用とあわせて、公共施設の整備改善をはかることを目的とする。

事業施行期間

平成5年5月25日～平成10年3月31日

総事業費

約280億円

■区画整理事業の流れ

組合設立の認可
↓
仮換地の指定
↓
建物等の移転
↓
道路・公園等の工事
↓
換地処分
↓
換地処分に伴う登記
清算金の徴収又付
↓
組合解散の認可

■事業のあゆみ

●1991年（平成3年）
8月1日　多目的ドーム岩崎橋地区選定の答申

●1992年（平成4年）
9月29日　岩崎橋土地区画整理組合設立準備会設立総会開催

●1993年（平成5年）
3月19日　大阪都市計画道路の変更
　　岩崎橋土地区画整理事業の都市計画決定
5月25日　大阪市長　大阪市岩崎橋土地区画整理組合の設立認可
5月31日　大阪市岩崎橋土地区画整理組合設立総会開催
8月3日　仮換地の指定
9月17日　大阪都市計画用途地域の変更
　　大阪都市計画地区計画の決定

●1995年（平成7年）
6月29日　ふるさとの顔づくりモデル土地区画整理事業
　　モデル地区指定
7月14日　街並み・まちづくり総合基本設計書提出
8月23日　ふるさとの顔づくりモデル土地区画整理事業計画書提出

■公共施設の整備

道路

	幅員(m)	面積(㎡)	延長(m)
◆都市計画道路			
本田大運橋線	27		320
千代崎線	16～25		919
境川線			402
◆都市計画道路小計	16～27	29,698	1,641
◆区画道路	6～16	9,982	944
合計		39,680	2,585

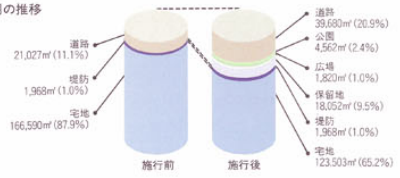
公園

第1号公園	1,170㎡
第2号公園	2,640㎡
緑地	2,720㎡

広場

1,820㎡

土地利用の推移



■地区計画の基本構想と事業計画

岩崎橋地区は、大阪市の総合計画21において、都心西部地域の活性化と都市の東西軸を強化する拠点地区として位置づけられ、また大阪都心部と新都心を育成する臨海部とのリンケージゾーンとしても、その役割が高まっている。

現在、地区中央に多目的ドーム、東側に地下鉄7号線、阪神西大阪線の新駅建設が予定されており、大阪の新しい「ニシ」の拠点として、今後大きく発展していくことが予想される。

そこで当地区の開発では、土地区画整理事業による基盤施設整備に加えて地区計画を導入し、土地の合理的な高度利用と多目的ドームを核としたシンボル性の高い商業・業務空間の形成を目的としている。

事業計画では、都市計画道路本田大運橋線、千代崎線、境川線を整備するとともに、新しい街区構成を考慮し区画道路を配置する。また尻無川沿いに親水性のあるプロムナード状の河川敷公園を、地区北側に約4,000㎡の公園を配置し、東側の地下鉄新駅建設予定地付近には、当地区への導入空間として広場を整備する予定である。

■ふるさとの顔づくり モデル土地区画整理事業

ドームへのアクセスルートとなる幹線道路・区画道路等の街路は、当地区の「顔」である。核施設へのメインアプローチ空間として、安全で快適なプロムナード空間をつくり出し、「ゆとり」「楽しみ」「賑わい」を提供できるまちづくりを推進するため、「ふるさとの顔づくりモデル土地区画整理事業」を導入し、連続かつ一体的な歩行者空間の形成、人工地盤等による立体的な歩車分離等の高品位な公共施設整備を行う。

■街並み・まちづくり総合支援事業

高次都市機能を立体的・複合的に配置し、しかも調和のとれた景観を形成するためには、公共施設とドームや民間事業者の施設との有機的な連携が不可欠である。歩道沿いの地区施設、多目的広場、各街区間と連結するデッキなど、主として宅地内のアメニティ空間の整備には「街並み・まちづくり総合支援事業」を活用し、当事業との一体性と連続性を確保して良好な都市環境・都市景観の形成をはかる予定である。

メインストリートから大阪ドームを望む（イメージ図）

■関連事業

❶大阪ドーム

当地区の核施設である多目的ドーム「大阪ドーム」は、スポーツをはじめあらゆるイベントに対応する「マルチドーム」をコンセプトとし、国際都市大阪の新しい「顔」として期待と注目を集めている。最大収容人数55,000人、年間来場者目標600万人。平成9年春の開業をめざして建設中である。

❷スーパー堤防

木津川・尻無川の流れる当地区は「水の都・大阪」を象徴する水辺環境に恵まれた地域である。この河川のアメニティ資産を生かし、親水性豊かなまちづくりをすすめるため、尻無川での耐震護岸工事、プロムナード状の河岸公園整備とともに、木津川でもスーパー堤防事業が計画されている。

スーパー堤防の整備（イメージ図）

❸岩松橋の拡幅架け替え

ドームのオープンに伴い、当地区内では大幅な交通量の増加が予想される。特に岩松橋は幹線道路となる本田大運橋線と大正橋交差点を結ぶ交通の要所になるため、本田大運橋線の拡幅整備に伴って岩松橋も拡幅、架け替えを実施し、円滑な交通処理をめざして整備される予定である。

❹地下鉄7号線の延伸整備

ドームがオープンする平成9年春の開通をめざして地下鉄7号線心斎橋－大正間（約3km）の延伸工事が進行し、当地区内に千代崎駅（仮称）が新設される予定である。ドームへの主要アクセスとしてだけでなく、通勤・通学等で増大する西区・大正区の輸送需要への対処が期待されている。

❺阪神西大阪線の延伸整備

阪神西大阪線は現在の千鳥橋－西九条間の路線を難波まで延伸し、近鉄難波線と連絡して阪神・阪奈を広域的に結ぶルートが計画され、運輸政策審議会答申で2005年までに整備することが適当である路線とされている。

この計画によって、当地区内に新駅が設置されれば、神戸・奈良エリアからドームまで一直線のラインで結ばれることになる。